

学 位 論 文 要 旨

研究題目 First-line chemotherapy with pemetrexed plus cisplatin for malignant peritoneal mesothelioma

(悪性腹膜中皮腫に対するペメトレキセドとシスプラチンによる初回化学療法の有効性の検討)

兵庫医科大学大学院医学研究科

医科学専攻

生体応答制御系

臨床腫瘍薬剤制御学 (指導教授 木島貴志)

氏 名

藤本 英利子

【研究目的】

本研究の目的は、悪性腹膜中皮腫の 24 症例のペメトレキセド+シスプラチン併用初回化学療法の有効性を検討する事である。

【研究材料と方法】

悪性腹膜中皮腫と組織学的に診断された 24 症例に対し初回化学療法としてペメトレキセド+シスプラチン併用療法を行った。効果判定は RECIST-criteria に準じて評価し、それに加え、FDG-PET を用いたメタボリックレスポンス (MR) で評価を行った。

有害事象は NCI、CTCAEv4.03 に従って評価した。

【研究結果】

24 症例のうち、上皮型は 22 症例、二相型が 2 症例、年齢の中央値は 66 歳 (32-76) であった。

CR 症例は 2 例、また PR 症例は 9 例であり、overall response rate:45.8%、disease control rate : 91.7%であった。PFS の中央値は 11.0 ヶ月 (95%CI, 10.0~11.9)、OS の中央値は 15.8 ヶ月 (95%CI, 14.6~17.0) であった。

臨床学的分類は Dry-painful type ; 7 症例 (29.2%)、Wet-type ; 7 症例 (29.2%)、Combined type ; 10 症例 (41.7%) であった。

Wet type の MST は 40.9 ヶ月でそれ以外のタイプ (15.5 ヶ月) より極めて長かった。

22 症例のうち 13 症例においては Metabolic response 評価を行い、CMR 症例は 3 例、PMR 症例は 6 例、SMD 症例は 2 例、PMD 症例は 2 例であった。

毒性について治療関連死はなく、血液毒性は好中球減少と血小板減少、貧血を認めた。非血液毒性はおおむね軽度であった。

【結論】

腹膜中皮腫に対するペメトレキセドとシスプラチン併用の全身化学療法が有効であることは明らかとなったが、今後、5 年生存率 50%以上とされる腫瘍減量切除術/術中腹腔内温熱化学療法 (CRS/HIPEC) との比較及び治療の組み合わせを検討する必要がある。